

石井時明・全葬連会長インタビュー

「対立、不安、偏見を乗り越える、他者の心に寄り添うことが反映されてきた」と評価した。TDF責任者の山本俊正氏（関西学院大学教

授も「それぞれユニークでテーマも明確だった。大満足の内容」と賞讃。一方で、修了後の課題としては「平和やSDG」といったこれまで学

の必要性を強調。世界には他者の苦しみのため活動している方がたくさんいます。ぜひ皆さん、エールを贈ってください。同TDFでは、修了後も授けようとする。

「対立、不安、偏見を乗り越える、他者の心に寄り添うことが反映されてきた」と評価した。TDF責任者の山本俊正氏（関西学院大学教

新型コロナウイルス感染症拡大により最初の緊急事態宣言が発出されてから1年あまり。仏教界では葬儀の延期や法事の中止が相次いだ。昨今は縮小しながらも実施されてきている。その葬儀の最新状況はどんな状況にあるのか。6月に国際葬儀連盟世界大会（オンライン）を控える全葬連（全日本葬祭業協同組合）の石井時明会長にインタビューした。

志村けんさんと岡江久美子さんの帰宅場面が今も日本人の頭の中に……

「国際葬儀連盟世界大会が6月23日、横浜市内のホテルを主会場にオンラインで行われます。世界的にコロナへの関心が高い。一年延期した世界大会でも各国のコロナについて報告が行われます。」

「意識が変わっていない。フランスでさえ、しかも感染対策をとりながらですから、ちょっと想像できないですね。ニュースで報じられているように感染死者の数が滞っている国が多くあります。そうした中で火葬が進んでいくという状況は、日本には火葬炉メーカーが3社ほどあり、火葬技術は世界的にもトップ。イタリアでも火葬が行われているけれども、灰というか粉になってしまっている。日本のように骨だけを残すというのには相当な技術なのです。海外からそうした企業にコンタクトしたいという要望が来ています。ただし高額のことでコスト面を採算が合わないという各国の業者もいます。いずれにしてもコロナによって世界的に火葬は注目されています。」

家族葬が浸透

それが今では90歳を超えて亡くなるのが珍しくない。故人の社会的ネットワークはなくなっているし、病院や施設に入っている人はおさらです。故人の子どもは、昔のように入人数ではないうらまらうくらい。その下の孫はいても1〜2人。家族や親族関係が

葬儀の縮小は必然 親族関係が小さくなり 集まらないのではなく、いない

「葬儀の縮小は必然。親族関係が小さくなり、集まらないのではなく、いない。これは、昔からの慣習に従うというのとは世帯にはあるけれども、子どもたちの代は、疑問符がつくとやらなくなる。『なんでお経を上げるのですか？』『なんで戒名が必要ですか？』『お布施ってなんでですか？』という疑問が『お弟子になるのだから戒名が必要ですよ』と答えたところで通用しなくなっています。しっかりと説明することが大切です。檀家でなくても素朴な疑問にお坊さんが説明できないと同じことがいえるのではないのでしょうか。」

檀家であっても求められる葬儀説明

「葬儀社にも風評被害があります。医療従事者と同じで、感染者の葬儀をされたら、コロナがうつるとか。社会的使命から積極的に受け入れている会社も多くあります。しかし、やればやるほど風評にあうことは大変だと話していました。」

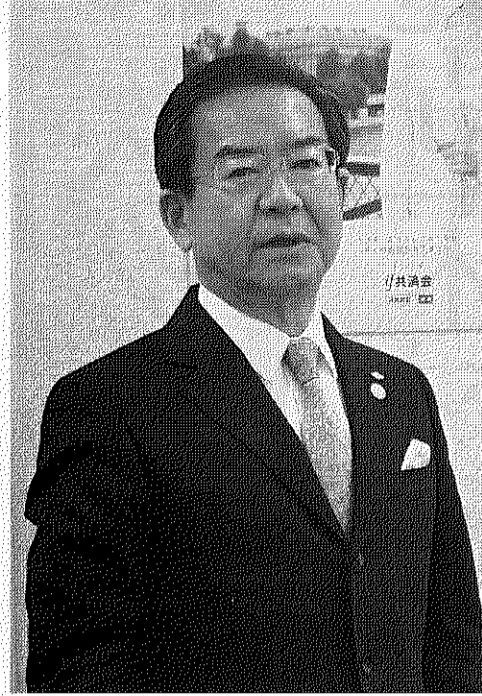
「葬儀では風評被害があります。遺族自身が世間には知られたくないという思いがある。特に地方ではコロナで亡くなったと知られると、その地域にいらなくなるからと、とにかく知られないようにとの傾向が強いです。その

「日本のコロナによる死者は1万人を超えました。世界では少ない方でヨーロッパのイタリアやフランス、イギリスはその10倍以上。そうした状況が日本でも起きている。年間の死者数は130万〜140万人で推移し、これに短期間で数万人が

「このことは私たち葬儀業界自身にも責任があるように感じています。一日葬も、通夜と葬儀別式と2日間をわたることも参列者は同じ顔ぶれ。だったら2日に分ける必要はどこにあるのかという理由も成り立つ。通夜と葬儀は2日間という、世間を納得させるような理論がなければ変化させるをえなない。通夜や葬儀を行う意味をしっかりと伝えることが大切だと思っています。」

「超高齢者の葬儀を高齢者が担うなど、いろいろな事情がわかりました。簡素化も進みました。東日本大震災後、葬儀の価値が見直されましたが、この10年の変化は著しい。遺族に慣習としてどうですかと提案しても、それが通じなくな

コロナ1年



いいい・ときあき／1956年神奈川県秦野市生まれ。先代（父親）の急逝により高校在学中、さがみ葬儀社（現、富士見斎場、秦野市）を継ぐ。2018年、全葬連本葬祭業協同組合連合会（全葬連）会長に就任。全葬連には全国1290社が加盟。6月に世界大会を開催する。

葬儀社にも風評被害

「葬儀社にも風評被害があります。医療従事者と同じで、感染者の葬儀をされたら、コロナがうつるとか。社会的使命から積極的に受け入れている会社も多くあります。しかし、やればやるほど風評にあうことは大変だと話していました。」

「葬儀社にも風評被害があります。医療従事者と同じで、感染者の葬儀をされたら、コロナがうつるとか。社会的使命から積極的に受け入れている会社も多くあります。しかし、やればやるほど風評にあうことは大変だと話していました。」

共通リーフレット作成 北野天満宮と仁和寺

京都市右京区の真言宗御室派本山仁和寺と北野天満宮の祭神・菅公と菅原道真の絆が、修学旅行向けの共通リーフレットを作成し（写真）。次世代への共同活動としても注目されそう。

北野天満宮の表裏に、鳥居の近くには、寺境内の北西側を歩くと、

新設された案内板は、一顧不動尊、菅公の腰掛石に矢付、原平の諺言により、大宰府に左遷菅公が、宇多法皇の挨拶をするため、の挨拶をするため、の法皇を待って、伝えられる岩で、「水を掛けられは叶う」という信仰の不動明王（近畿36不動明王）の霊場第14番一顧不動尊の台座になっている。

北野天満宮の表裏に、鳥居の近くには、寺境内の北西側を歩くと、

中垣顕実の ニューヨーク宗教 文化差点

（毎月1回）

「卍」映画 クラウドファンディング開始！

今年に入り、ワクチン接種が進みだすと同時に様々な機関も動き始めました。またアジア人に対する人種差別、ヘイトクライム（憎悪犯罪）も増加。それに隠れてニュースに出てきませんが、NY州でヘイトクライムに関する法案が1月22日に提出されました。教育に関する法案S2727で、「6年生から高校3年生までの学校教育カリキュラムの中に、ヘイトクライムで使われるシンボルについて教える」というものでした。この法案が通ると、NY州の子どもたちは学校で「卍」とヌース（首絞刑）が憎悪で不寛容を表すシンボルであると教えられることになりま

そのような中、2年前から撮っていた「卍」映画がほぼ仕上がっています。このフィルムはユダヤ人のアダム・ウィットマンさん（プロデューサー）と日本人の木滑ヨウスケさん（ディレクター）が私の著書『卍とハーケンクロイツ』に基づいて、様々な角度から、様々な背景の人々にも役に立つものとなっていきます。コロナ禍のため先の見えない状況が続きましたが、編集が進み、今年から撮影再開されました。最終段階に入り、足りない資金は5月（5月）のクラウドファンディングで補うことになりました（www.seedandspark.com/fund/manji）。30代の若い二人が卍を掛けたことに感謝しています。アダム氏は「ユダヤ人の学校に行き、ユダヤ人の家庭で育った自分はスワスティカと言ったが、中垣は本をよんでユダヤ人から学んだ」と話しています。